

2026 年度 東京医科大学 医学部医学科
一般選抜・共通テスト利用選抜

小 論 文

I. 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子は開いてはいけません。
2. 試験開始後、頁の落丁・乱丁および印刷不鮮明、また解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. 試験終了後、解答用紙を回収します。
4. この問題冊子は持ち帰ることができます。ただし、試験終了後、監督者の指示があるまでかばんの中等にしまうことはできません。
5. 監督者の指示に従い、解答用紙の「受験番号」・「氏名」欄に正しく記入してください。

II. 下記の文章を読み解答してください。

1. 試験時間 : 60 分
2. 課題 : 日本語の課題 1 題
3. 解答の仕方 : 解答用紙に記入してください。

[次のページに進む →](#)

下記の文章は、江戸時代後期に江戸の長屋に住んでいた人びとの暮らしを紹介したものです。下線部で、筆者は長屋に住む人びとにとって隣近所との「親密な挨拶」は「強固な仕切り」となったと述べています。まず、親密な挨拶が強固な仕切りとなるとはどういうことなのかを説明しなさい。そのうえで、あなたが日頃経験している挨拶の例を1つ挙げて、それがどのような意味や役割を持っているかを、下線部の挨拶との同異に触れながら600字以内で述べなさい。

江戸文化が爛熟を極めた江戸後期、江戸市内の人口は120万人に達し、同時代のパリ、ロンドンを凌ぐ、世界一のメトロポリスとなる。

すなわち「江戸っ子」と自他ともに認める、我らが先祖、熊さん八つぁんは正真正銘の、メトロポリタンであった。彼らの^{ほん}殆どは、日本橋から神田にかけたメイン・ストリートの裏手に位置する、賃貸集合住宅に住んでいた。これが、名にし負う「九尺二間の裏長屋」である。

間口九尺(約2.7m)、奥行き二間(約3.6m)、専有面積三坪(約9.9㎡)。土間付き四畳半一間。郊外の庭付き一戸建てとは対極のライフ・スタイル、都心のワンルーム・マンションの元祖である。

————— 中略 —————

人と人との距離が、近くなれば近くなるほど、他者との間に摩擦が生じ易くなるのは、古今東西を問わず、お決まりの常識である。高密度の都市では、限られたスペース内でのプライバシーの確保が、重要な課題となって来る。

ワンルーム・マンションは、防音壁と鉄の扉で、上下左右前後の「隣」と、縁を切る事によって、かろうじて何とか、存在意義を保とうとしている。にもかかわらず、ワンルーム・マンションに住む苦情中、一番多いのは、隣の生活音だと言う。長屋の壁は薄い。隣の物音は、微かな^{きぬず}衣擦れさえ、はっきりと漏れ聞こえ、煮炊きの匂い^{まで}迄筒抜けである。戸や窓には鍵すらない。それでも、住人間のトラブルは皆無に等しかった。泰平の江戸を謳歌した、狭いながらも楽しい長屋の処世術とは、一体何だったのだろう。

分厚い仕切りでプライバシーを確保しようなどというのは、余りに即物的で幼稚ではないか。長屋には、高密度の都心に心地よく住む為の紳士協定、即ち、必要以上の隔絶と、節度なき馴れ合いを、戒める気風が存在していた。個々を尊重しつつ、和して暮らす「大人の協調」があったのである。

まず、彼らは、いつ何時でも挨拶を怠らない。挨拶は、他者と自分との間の「仕切り」であり、相撲の仕切りと同じだ。仕切らず、いきなり取っ組み合えば、単なる無秩序な私闘である。朝晩の挨拶は、「本日も他意なし」の表明であり、他者との快適な距離をキープする為の確認作業である。一線越えて立ち入るなよと牽制すると同時に、そっちにも干渉しやしねえと宣言しているのだ。隣近所との親密な挨拶は、どんな外壁よりも強固な仕切りとなる。故に、江戸人は当たり障りのない時候の挨拶が大得意だ。実生活の生臭い話題は、当た

り障りのあるプライバシーの押し付けに過ぎない。つまり、互いの人生を語らず、そうした話に凡^{およ}そ興味を示さぬポーズが、都会人の粋とされた。他者の人生なんぞ、臭い芝居や演歌のネタにこそなれ、食い残しの料理の様なもので、お裾分けされた所で、有難くもなんともない。壁が薄っぺらだろうが、窓や戸が明けっ広げだろうが、とんと意に介さなかったのは、無遠慮に土足で他人の生活に踏み入る事を何より恥じる、都市の美学があったからで、聞き耳を立てたり、のぞき見をする輩は、「野中の一軒家の田舎者(隣近所が珍しい位に、他者の住んでいない辺境の人)」とそしられたものである。

杉浦日向子『江戸へおかえりなさいませ』河出書房新社より一部改編